

(国語)

「一人ひとりの読解力を高める授業づくり」

～国語科物語文の指導を中心として～

大阪市立南恩加島小学校 研修部

1 研究主題の設定

本校では、学習指導要領の趣旨を踏まえ、学校教育目標「創造性、自主性を身につけた人間性豊かな子どもを育成する」のもと、「よく考え、粘り強くやりぬく子ども」「思いやりがあり助け合う子ども」「からだところをきたえる子ども」を育てることを重点に置いて、教育活動を進めてきている。

平成28年度から全ての学習活動の基盤となる国語科を研究教科として、「読む力」の向上を目指して取り組んできた。昨年度は、説明文を中心に、文章中に書かれている内容を根拠として著者の考えを読み取ったり、自分の意見を考えたりすることを指導してきた。その中で、児童が意欲的に学習に取り組み、説明文の叙述に即して読み取ることができるようになってきた。他方で、児童の「読む力」のもととなる基礎・基本の力に課題があることも明らかになってきた。

そこで、今年度は、これまでの国語科の研究を継続し、物語文の「読む力」育成に重点を置いて取り組んでいきたいと考えた。その際、物語文のおもしろさや良さを感じ取れるような「読む力」の指導法を工夫していきたい。また、基礎・基本の習得が「読む力」の向上にもつながることから、音読や漢字、語彙の習得、などの基礎・基本の定着を意識的に追求していきたい。

また、「読むこと」は言語活動の中でも重要な要素であり、それが自発的な読書活動につながれば、学習意欲を向上させたり、情緒豊かな感性を育てることにもつながる。そして、読書活動は、自分の目的に応じて知識を得たり、楽しんだりすることができることから、「読む力」の育成につながるだけでなく、主体的に学び続ける児童の育成につながると考える。

そこで、本年度は、研究主題を「一人ひとりの読解力を高める授業づくり～国語科物語文の指導を中心として～」を主題として研究を進めることとした。

2 研究の概要

視点1 「読む力」につながる基礎・基本の定着をはかる取り組み

- 物語文を読み取るために、音読指導に力を入れる。学習場面に応じて様々な音読指導を工夫して行うことで、児童が意欲的に学習に取り組むことができるようにする。
- 今年度から3年以上の児童に、個人持ちの国語辞典を持たせる。使いたいときにいつでも使えるように、児童机の横に手提げカバンに入れておく。新しい単元の導入では、言葉や新出漢字、熟語の意味調べを行い、語彙力の習得に取り組む。
- 本年度より昼学習の時間（15分）を設定して、週2回は国語・算数での基礎・基本の繰り返し学習（週3回は外国語学習）を行う。

視点2 物語文の「読む力」をつける取り組み

- ワークシートを学年に応じて工夫して使用する。

◆登場人物に同化しての吹き出し（1年「おおきなかぶ」、2年「かきこじぞう」）

◆○○日記（４年「ごんぎつね」）

◆中心人物の変容を読み取り（３年「サーカスのライオン」）

◆表現上の特徴をとらえる（５年「注文の多い料理店」）

- 学習発表会を国語科の年間指導計画に位置づけ、音読劇に取り組む。保護者や全校児童の前で発表することにより、表現することに成就感を持たせるように工夫する。
- 授業の導入部分で電子黒板を活用し、前時までの学習内容を児童とのやりとりの中で随時写しだし効果的な活用をはかる。
- ◆６年「海の命」導入場面

視点３ 読書環境の充実

- 図書室だよりの発行や休み時間の図書室開放など、図書室の有効な活用をはかる。
- 図書委員会の活動として、各クラスへの出張紙芝居の実施、児童集会での啓発活動に取り組む。
- 図書館支援員、ボランティアとの連携した取り組みを工夫する。
- 読書経験を積むことができるように並行読書を取り入れ、表現活動等に活かす。

３ 研究の成果と今後の課題

（１）研究の成果

- 物語文の読解のために、全学年で目的に応じた音読の工夫に取り組んだ。昼学習では、漢字学習など基礎・基本の習得に力を入れてきた。また、３年生以上で一人ひとりに国語辞典を持たせたことで、日常的に国語辞典を使う習慣が身につき始めている。調べた言葉に付箋をはり、効果的な活用も図ってきた。その結果、「言語」「漢字」などの観点で学力の向上が見られた。
- 物語文の読解の手立てとしてワークシートの活用を図ったり、発問の工夫を行ったりしてきた。児童は、本文を基に根拠を上げて登場人物の気持ちや様子を読み取るようになってきた。
- 各学年では、読書活動につながるように単元構成を工夫してきた。特に並行読書に取り組むことで読書活動に広がりが見られた。学年に応じた「読書ノート」を活用し、「読書の木」等にも取り組んだ。また、図書館支援員やボランティアによるお話会、図書委員会による読み聞かせや休み時間の図書室開放など、児童が本に親しめる環境を整えてきた。その中で、楽しく読書をする児童が増えてきた。友だち同士で読み聞かせをする姿も見ることができるようになった。

（２）今後の課題

- 児童の意見交流を活発にするために、ハンドサインの統一、「ペア交流」「グループ交流」「全体交流」など、様々な交流の機会を持ってきた。学年に応じた交流のあり方を考え、効果的な活用を考えていきたい。
- １学期に比べ「読む力」は向上してきているが、まだまだ文章を読むことに抵抗を感じている児童もいる。児童の関心や興味を持続させていくために、引き続き読書環境の充実に努めなければならない。
- 漢字学習や国語辞典の辞書引き、音読は、「読む力」の向上につながる事が明らかとなった。今後も国語科の基礎・基本の定着に向けて継続的に取り組んでいく必要がある。